

動画配信とクラシック

鈴木淳史

ネット動画をスムーズに見られるようになった現代

昔のインターネットは遅かった。定食屋で『ゴルゴ13』の単行本をつい手に取ってしまうように、ウェブサイトが切り替わるまでの手持ち無沙汰に詩の一編でもじっくりと味わうことさえできた。回線速度が速くなるに従って、詩が短歌、俳句になり、ブロードバンドが当たり前になった今日では待ち時間そのものが消滅、おかげで詩歌集を紐解く機会が少なくなった。定食屋がチャーハンを秒速で提供するようになれば、ゴルゴだって読まれなくなってしまうかもしれない。

その当時は、インターネットを介してスムーズに動画を見るということは遠い未来のように思われたものだ。今や、電車のなかでスマートフォンで、ドイツの演奏会やアルゼンチンのサッカー、カタルのニュースなどのライブ映像をストレスなく楽しむことができる。

さらに、プロとアマの垣根を越え、

YouTubeなどの動画投稿サイトに投稿、それがTwitterやFacebookなどのSNSを通して拡散、共有し合う時代でもある。投稿した動画のアクセスを集めることで収益を得るユーチューバーといわれる人々も出てきている。映像を作って公表するコストが恐ろしく下がっているのが現代なのだ。

ネットから生まれたアーティスト



2CELLOS (写真提供：ソニー・ミュージック
ジャパンインターナショナル)

インターネットの動画サイトでメジャー・デビューの機縁を作る演奏家も現れている。

たとえば、スロヴェニア人とクロアチア人の二人の若いチェリストによるユニット「2CELLOS」。彼らはマイケル・ジャ

クソンの〈スムーズ・クリミナル〉を2台のチェロで演奏、その映像をYouTubeにアップ、2週間で300万回再生されたというから驚くほかはない。その後ソニー・ミュージックが3枚のディスクをリリースし、巧みなアレンジをほどこしたロック・ナンバーを、チェロ界の吉田兄弟というべき息の合った白熱のアンサンブルで聴かせている。超絶技巧によるノイジーで切迫したビート感。チェロという伝統的な楽器のイメージを乗り越えた彼らの音楽が多くの人々の関心を集めたように、インターネットでは意外性がポイントの一つにもなる。

HJリムの鮮烈なるデビュー

今月21日に読響と共演（読響サマーフェスティバル2015《三大協奏曲》）するHJリムも、YouTubeにみずから投稿した映像でブレイクしたピアニストだ。そのキッカケは、リムスキー＝コルサコフの〈熊蜂の飛行〉の演奏映像。人間が弾いているとは思われぬほどの超快速演奏は、まるでコンロン＝ナンカロウの自動ピアノ作品のように、方向性が曖昧になったカオスを帯びて聴き手を翻弄する。

このような尋常ならざる演奏をネットで見ってしまうと、SNSを

使って、それを人に教えたいものだし、そうやってねずみ算式に彼女の映像を見る人が増えて、50万件のアクセスを達成。2012年、EMIクラシックスから、ディスクをリリースすることになる。それが、ピアニストとしての“新約聖書”であるベートーヴェンのピアノ・ソナタ全集というのだから異例中の異例だ。

公式プロフィールには、フランス留学中に韓国に住む家族に向けて最初の動画をアップしたところ、それを偶然に見た人々が話題にし、注目を集めたというエピソードが記されている。「友達が勝手にオーディションに申し込んだのがデビューのきっかけ」といった往年のアイドルの「慎ましやかさ」を際立たせたストーリーをつい思い出してしまうのは老輩の悪しき癖であるが、いずれにせよ、それがベートーヴェンのピアノ・ソナタ全集に繋がってしまうのだから、インターネットのチカラは強力だ。



HJリム ©S.Aoyagi

とにかく、HJリムのような強烈なアピール感が、ネットで話題を集めるためには大きな武器になる。もしもHJリムが、バックハウスだのオピッツだのといったような、いぶし銀のピアニズムで弾くような人であれば、ベートーヴェンのピアノ・ソナタを録音するのは、あと20年くらい先だったかもしれない。

マニアックなものを 一般開放した動画

インターネットを介したコミュニケーションのなかでは、突如として変なものが流行ったりする。たとえば、昨年Twitterで話題になった(そして、他と同様、ほどなく情報の大海原へと流れていった)ものに、マウリツィオ・カーゲルのティンパニ協奏曲がある。

20世紀の作曲家のなかでも、音楽が社会にとってどんな意味があるのかを聴き手につねに意識させる音楽を作り、パフォーマンス性も高く、要するにヘンテコな曲ばかり書いたカーゲルだが、彼のティンパニ協奏曲は、ソリストがティンパニの鼓面から上半身を突っ込むというフィナーレが用意されている(正確には、皮膜の代わりに紙を貼った楽器に飛び込むパフォーマンスだ)。こういった情報は、現代音楽の愛好者^{かいわい}界隈から散発的に出るネタではあった。しかし、打楽器奏者の渡邊

理恵さんが、楽譜に掲載されている「ティンパニに頭を突っ込む演奏者」(=写真)イラ



写真提供: 渡邊理恵

ストと、みずからの練習風景の写真をTwitterに掲載、さらに彼女がソリストとして参加した演奏の動画をアップして、大いに耳目を集めたのであった。

文字情報だけだと、「へー」と一つうなずいて終わりそうなコネタに過ぎないものが、動画の存在によって、大きなインパクトを及ぼしたわけである。さらに、カーゲルという作曲家どころか、現代音楽というジャンルさえ知らない人にも、そのドリフターズ的なおかしさで、「カーゲル、すげえ」という驚きと発見をもたらしたのであった。これはインターネット動画ならではの効果ともいえよう。マニアックなネタも、そうではないほとんどの人々に訴えかけられる契機が動画サイトにはある。そして、そういった方々が、現代曲を並べたプログラムの演奏会にこぞって足を運んでいただければ、と心から願わずにはいられない。

オーケストラも 配信する

さて、読響もインターネットで動画配信を行っている。日本テレビの動画サイト「日テレオンデマンド」のなかで視聴できる、「読響シンフォニックライブ」だ。お薦めは、カンブルランが指揮した〈春の祭典〉、スクロヴァチェフスキのチャイコフスキーの交響曲第6番〈悲愴〉、石川星太郎によるフォーレの〈レクイエム〉など。室内楽もあって、いつでもどこでも無料で楽しめる。同名番組でテレビ放送した他の映像や、ロジェストヴェンスキーなどのアーカイブ映像のコンテンツもぜひ増やして欲しい。

オーケストラが行っているインターネット配信の最高峰といえば、ベルリン・フィルに止めを刺す。この「デジタル・コンサートホール」は、定期公演の生中継にアーカイブ映像、ドキュメンタリーを含む。料金も横綱級だが、これだけの内容なら決して高くはないと思わせるコンテンツが揃う。

2008年、このプロジェクトをベルリン・フィルが発表したとき、担当者であったチェロ奏者のオラフ・マニングが語ったことをよく覚えている。ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団やロンドン交響楽団などのオーケストラが自主制作としてCDを作っているけ

ど、我らベルリン・フィルが同じことをするつもりはない。これからはインターネットを介した配信の時代だからだ。音だけでなく映像で、しかも高画質、高音質で提供できるだけの準備が我々にはすでにできているのだ、と。

マニングといえば、チェロ・パートのトップを務め、最前列からそのコワモテと眼力で指揮者に多大なプレッシャーをかけ続ける鬼将校。そんな彼がドヤ顔を隠しきれずに語った言葉には、音楽を作るだけでなく、その提供の仕方を考えるのも我々であり、それが世界の音楽業界をリードしていくのだ、という自信に満ちあふれていた。その後ベルリン・フィルはCDもリリースしているので、多少の揺り戻しもあったのだろうが、さすがは最先端を走らなきゃいけないベルリン・フィル、言うことがヨソとは違うものよ、と感心した。遠いように思われた未来は、意外にもすぐにやって来てしまったわけだ。(すずき あつふみ・音楽評論家)



「読響シンフォニックライブ」で〈心のプラカード〉の動画も公開 ©NTV

◎ヴァイオリン奏者

對馬哲男

Tetsuo Tsushima

平成生まれの楽員誕生
音色を探求したい

「読売日本交響楽団に20代の楽員は4人。今年2月に正式に入団した對馬さんは、そのうち最も若い25歳、平成生まれの楽員だ。読響のオーディションに応募した時も東京芸術大学の大学院生だった。読響での日々は？」

僕がエキストラ（賛助出演）としていろいろなオーケストラを経験した中で、読響は特別なオーケストラだと思います。皆自信を持って演奏している感じがします。コンサートマスターはじめ各パートのトップの方々はスタープレイヤーぞろいで、見ていただけで勉強になりますね。

入団後1か月で欧州公演に参加できたのはラッキーでした。スタンディング・オベーションを初めて体験し、胸が熱くなりました。欧州で演奏したドヴォルザークの交響曲第9番〈新世界から〉を8月の「三大交響曲」で再び弾きます。指揮者の解釈で随分変わります。ケン＝デイヴィッド・マズアさんの指揮が楽しみです。「三大協奏曲」

のうちメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲は、今回15歳の服部百音さんが弾くそうですね。才能のある若い人に続々と登場してきてほしいです。《東京生まれの東京育ち。5歳からヴァイオリンを始め、山本直純率いるジュニア・フィルハーモニック・オーケストラに小学6年生で入団した。高校で全日本学生音楽コンクール全国1位に。芸大ではチェンバーオーケストラでコンサートマスターを務め、弦楽四重奏など室内楽でも活躍した》

ジュニアのオーケストラに入ったのは、一人で弾くより友達ができるよと先生に紹介されたから。初のオーディションの課題曲はヴィターリのシャコンヌでした。このオーケストラを大学2年まで続けて、最後はコンマスに。プロのオーケストラにエキストラで出演するようになったので辞めましたが、みんなで弾く楽しみを学びました。

僕は管楽器の音が大好きなんです。弦の音ととけあった時、本当に素晴らしいと感じます。ソリストの道は考えませんでした。性格的に、「僕を見てくれ」というタイプではないから。オーケストラで弾いている時が幸せです。《演奏家として日々心掛けていますか》



ベルリン・フィルハーモニー大ホールでのステージリハーサル（3月2日）

大学4年の時、オーストリア・ザルツブルクで開かれるモーツァルテウム音楽大学夏期国際音楽アカデミーに参加したのですが、その時、ある先生のヴァイオリンの音色に衝撃を受けたことがあります。それまで聴いたことがないような美しい音がした。僕はその音を聴くために先生のもとに通いつめた。するとある日、レッスンを受けにきた学生に対し、先生は「きみ、自分の演奏をどう思う？」と聞いたのです。「音程が……」と言う学生に対し、「音が汚い、それに尽きる」と指摘された。やはり音色の重要性を教えているのだな、と思いました。僕はそれまで、ヴァイオリンをさらう時、曲を仕上げることに集中していましたが、アカデミーでの経験を機に、美しい音色を出すことをより重視するようになりました。ウィーン・フィルの演奏家が、「オ

ーケストラで気を付けることは？」という問いに「一番きれいな音で弾くことだ」と答えたという話を聞いたことがあります。音色は今も僕のうちのテーマで

す。どうしてももっといい音色を出せるかを常に意識しています。

《若い世代にもっとクラシックを聴いてもらうにはどうすればいい？》

小学校の時に、何度か音楽鑑賞会があって、地域の文化センターでオーケストラの演奏を聴きました。楽器紹介も楽しみでした。そういう体験って心に残りますよね。

身近なところにクラシックがあるというのも、とても大事だと思います。後々、モーツァルトのピアノ協奏曲第21番をオーケストラで演奏しましたが、その第2楽章ではっとしたんです。そう、学校の掃除の時間に流れていたあの曲だなと。牛乳のにおいも一緒に思い出しましたよ（笑）。

僕自身、最若手の楽団員として読響で頑張って、音楽の素晴らしさを若者に知ってもらえるよう努力します。

ワーグナーの大作に初演150周年を記念して挑戦

9/6 (日) 15:00 第551回 定期演奏会
サントリーホール

完売

9/13 (日) 15:00 第585回 サントリーホール名曲シリーズ
サントリーホール

完売

ワーグナー：楽劇〈トリスタンとイゾルデ〉(全3幕／演奏会形式・字幕付き)
指揮：シルヴァン・カンブルラン 独唱：エリン・ケイヴス(トリスタン)、クリスティアーネ・イーヴェン(イゾルデ)、アッティラ・ユン(マルケ)、クラウディア・マーンケ(ブランゲーネ)、石野繁生(クルヴェナル)、アンドレ・モルシュ(メロート)、与儀 巧(牧童、舵手、若い水夫) 男声合唱：新国立劇場合唱団



シルヴァン・カンブルラン

カンブルランとジャズの鬼才・小曾根真が注目の初共演！

9/11 (金) 19:00 第18回 読響メトロポリタン・シリーズ
東京芸術劇場

ムソルグスキー：交響詩〈はげ山の一夜〉(原典版)
ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲
ムソルグスキー(ラヴェル編)：組曲〈展覧会の絵〉
指揮：シルヴァン・カンブルラン ピアノ：小曾根 真



小曾根 真

501席の小さなホールで贅沢に楽しむ《ハイドンの名曲選》

9/16 (水) 19:30 第7回 読響アンサンブル・シリーズ
よみうり大手町ホール ※19:00より解説

完売

《下野竜也のハイドン》
ハイドン：王立音楽家協会のための行進曲、チェロ協奏曲 第1番
交響曲 第101番〈時計〉

指揮：下野竜也 チェロ：上村文乃 ※当初出演を予定していた遠藤真理は、出演できなくなりました。



下野竜也

名匠・尾高が練達のタクトを振り、国際派・諏訪内が共演

9/20 (日) 14:00 第180回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
東京芸術劇場

9/21 (月) 14:00 第82回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール

リャードフ：魔法にかけられた湖
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番〈トルコ風〉
チャイコフスキー：交響曲 第4番
指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：諏訪内晶子



尾高忠明

9月 公演の聴きどころ

9月の公演では、まず6日と13日に常任指揮者カンブルランが登場し、ワーグナーの楽劇〈トリスタンとイゾルデ〉(全3幕・演奏会形式)を披露する。カンブルランとのオペラ全曲演奏は、今シーズン最大の目玉で、2010年に常任指揮者に就任して以来待望の企画となる。2014年7月(新演出上演)にカンブルランが音楽総監督を務めるドイツのシュトゥットガルト歌劇場で好評を博した顔ぶれが、ほぼ同じメンバーで来日する。トリスタン役は、欧州の主要歌劇場に相次いでデビューしている若手のエリン・ケイヴス。イゾルデ役は、多彩な音色と迫力ある歌唱が魅力のクリスティアーネ・イーヴェン。その他、シュトゥットガルト歌劇場専属歌手ら実力派が脇を固める。多くの歌劇場で音楽監督を務めてきたカンブルランのタクトが生み出す、世界最先端の優れた演奏が聴けるだろう。

11日はピアニスト小曾根真がカンブルランと初共演。ラフマニノフの〈パガニーニの主題による狂詩曲〉を披露する。ジャズ・ピアニストとして超一流の小曾根がクラシックの分野で見せる、ファンタジーあふれる世界に期待が高まる。後半はムソルグスキー(ラヴェル編)の組曲〈展覧会の絵〉。魅惑的なロシア・プログラムの一夜をお楽しみいただきたい。

16日は、ウィーンで学び、ハイドンの魅力も難しさも知り尽くした首席客演指揮者・下野竜也の「オール・ハイドン・プログラム」。501席とハイドンに適したサイズのよみうり大手町ホールで、その奥深い世界に迫る。期待の若手チェリスト上村文乃との共演も楽しみだ。

20日と21日は、名誉客演指揮者の尾高忠明が登場。モーツァルトの協奏曲〈トルコ風〉では国際派ヴァイオリニスト諏訪内晶子が独奏を務める。諏訪内と読響の共演は実に14年ぶり、早くも話題沸騰中だ。1714年製ストラディヴァリウス「ドルフィン」の艶やかな音色で描かれる典雅なモーツァルトの世界にご期待を。後半は、チャイコフスキーの傑作交響曲・第4番。昨年11月にエルガーの交響曲を熱演し喝采を浴びた名匠が、入魂のタクトで導く感動のフィナーレを、会場でご堪能いただきたい。(文責：事務局)

読響チケットWEB

検索

俊英・下野のダイナミックな〈巨人〉、名手モワネとの共演も

10/2 (金) 19:00 第4回 東京オペラシティ名曲シリーズ
東京オペラシティ コンサートホール

10/3 (土) 14:00 第83回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール

モーツァルト：オーボエ協奏曲 K.314

マーラー：交響曲 第1番〈巨人〉

指揮：下野竜也

オーボエ：セリーヌ・モワネ



セリーヌ・モワネ

現代音楽の大家アダムズの傑作〈ハルモニレーレ〉を披露

10/13 (火) 19:00 第552回 定期演奏会
サントリーホール

ベートーヴェン：序曲〈コリオラン〉

ヒンデミット：〈白鳥を焼く男〉(ヴィオラと管弦楽)

ジョン・アダムズ：ハルモニレーレ (和声学)

指揮：下野竜也

ヴィオラ：鈴木康浩(読響ソロ・ヴィオラ)



下野竜也

古典派を得意とする菊池が、木管楽器の名手達と共演！

11/5 (木) 19:30 第8回 読響アンサンブル・シリーズ
よみうり大手町ホール ※19:00から解説

《菊池洋子×読響の室内楽》

モーツァルト：歌劇〈魔笛〉序曲 (木管五重奏版)

モーツァルト：ピアノと管楽のための五重奏曲 K.452

ベートーヴェン：ピアノと管楽のための五重奏曲

ピアノ：菊池洋子

フルート：一戸 敦

オーボエ：蠣崎耕三

クラリネット：金子 平

ファゴット：井上俊次

ホルン：松坂 隼



菊池洋子

名匠ヴァンスカが登場。実力派ラ・サールが人気曲を弾く

11/20 (金) 19:00 第19回 読響メトロポリタン・シリーズ
東京芸術劇場

11/21 (土) 17:00 第12回 大阪定期演奏会
ザ・シンフォニーホール(大阪) **完売**



オスモ・ヴァンスカ

シベリウス：交響詩〈フィンランディア〉

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番

シベリウス：交響曲 第2番

指揮：オスモ・ヴァンスカ

ピアノ：リーズ・ドウ・ラ・サール

シベリウスの生誕150周年を祝して贈る《名曲選》

11/27 (金) 19:00 第586回 サントリーホール名曲シリーズ
サントリーホール

11/28 (土) 14:00 第181回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
東京芸術劇場



エリナ・ヴァハラ

シベリウス：〈カレリア〉組曲

シベリウス：ヴァイオリン協奏曲

シベリウス：交響曲 第1番

指揮：オスモ・ヴァンスカ

ヴァイオリン：エリナ・ヴァハラ

こんなに便利！ 読響チケットWEB

読響チケットWEBは、インターネットから読響のチケットをお求めいただける専用ウェブサイトです。24時間いつでもお申し込みができ、ご自身でお好みの座席をお選びいただけます。

以下のURLもしくは公式ウェブサイトのトップページ【読響チケットWEB】のボタンから、ぜひご利用ください。

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

※初回お申し込み時は利用登録(無料)が必要です。

お申し込み・
お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390
(10:00~18:00/年中無休)

ホームページアドレス <http://yomikyo.or.jp/>

読響 夏の《三大交響曲》

■ 8/18 (火) 15:00 パルテノン多摩大ホール

指揮：ケン＝デイヴィッド・マズア

シューベルト／交響曲第7番〈未完成〉

ベートーヴェン／交響曲第5番〈運命〉

ドヴォルザーク／交響曲 第9番〈新世界から〉

[料金] S ¥7,000 A ¥6,000 学生 ¥2,000

[お問い合わせ] チケットパルテノン 042-376-8181

熊谷市誕生10周年記念

尾高忠明 × 諏訪内晶子 with 読響 シンフォニックコンサート

■ 9/22 (火・休) 15:00 熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール

ウェスタ川越オープニング記念

読売日本交響楽団 特別演奏会

■ 9/23 (水・祝) 14:00 ウェスタ川越 大ホール

指揮：尾高忠明

ヴァイオリン：諏訪内晶子

リヤードフ／交響詩〈魔法にかけられた湖〉

モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第5番〈トルコ風〉

チャイコフスキー／交響曲第4番

[料金] 9/22：S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 高校生以下 ¥3,000

9/23：S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,000

[お問い合わせ] 9/22：さくらめいとチケットセンター 048-532-9090

9/23：ウェスタ川越 049-249-3777

日本テレビ「読響シンフォニックライブ」 公開録画

■ 9/28 (月) 19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮：飯森範親

打楽器：岡田全弘、西久保友広、野本洋介 ほか

三木稔／マリンバ・スピリチュアル

レスピーギ／交響詩〈ローマの祭り〉 ほか

[お問い合わせ] 「読響シンフォニックライブ」ホームページ

<http://www.ntv.co.jp/yomikyo>